

2011年 環境経営学会 研究報告大会 シンポジウム SE1

サプライチェーンの持続可能性—世界の動向と企業にとっての課題

チア:宮崎 正浩(跡見学園女子大学)

Supply chain sustainability-global trend and challenges for Japanese companies

Masahiro MIYAZAKI, Atomi University

参加者:宮本 武(グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク事務局長)

谷口 正次(資源・環境戦略設計事務所 代表)

糸井 まり(ディープグリーンコサルティング、立教大学・跡見学園女子大学非常勤講師)

金井 路也 (日本テトラパック株式会社 環境本部マネージャー)

実施日: 5月29日(日) 15:15~17:15

(1)シンポジウムの論点

現代の世界は、気候変動や生物多様性の喪失などの地球環境問題が深刻化しつつある中で、開発途上国の貧困や人権問題を解決しつつ持続可能な社会を形成していくことが人類共通の目標となっている。しかし、国連が定める2015年を目標とするミレニアム開発目標は達成が危ぶまれている。

このような中で、世界規模で活動する多国籍企業は、グローバリゼーションの進展によって世界中にそのサプライチェーンを拡張しており、その影響力は国のレベルを超える企業も多数現れている。このため、これらの多国籍企業は、その社会的責任(CSR)として、サプライチェーンを含めて世界の持続可能な発展に貢献することが期待されている。近年、先進国企業が開発途上国サプライヤーに対し、人権や労働基準などに関する行動規範の遵守を求めたり、生物多様性保全の分野では森林管理評議会(FSC)など持続可能な資源管理によって得られた生物資源の認証制度が拡大している。しかし、多くの企業にとってサプライチェーンは複雑であり、そのトレーサビリティを構築することは容易ではない。

本シンポジウムは、企業のCSRとして、開発途上国における原料採取段階からのサプライチェーンにおいて社会・環境的側面に適切に配慮することで、サプライチェーンの持続可能性を実現することにより、持続可能な発展への貢献を目指す企業のサプライチェーンマネジメント(SCM)の今後の課題を明らかにすることである。このため、本シンポジウムでは、サプライチェーンの持続可能性を追求する国際的な動きや企業のSCMの取組み事例を基に討議する。

(2) 問題提起 15:15~15:25

宮崎 正浩:生物多様性保全の課題

(3)基調報告 15:25~16:25

宮本 武 GC-JNの分科会活動～サプライチェーンを通じた取り組み～

谷口 正次 サプライチェーンの最上流で起きていること

糸井 まり 木材製品のサプライチェーン管理:米国レーシー法とEU法

金井 路也 テトラパックの持続可能な成長に向けた責任ある調達

(4)パネル・ディスカッション 16:25~17:10

サプライチェーンの持続可能性に向けた企業の取組みの現状と課題、生物多様性の分野で取組みが進んでいる木材の事例などを基にしたサプライチェーンの持続可能性に対する政府と企業の役割、国連グローバルコンパクトが2010年に公表したサプライチェーンのガイドなど国際的なガイドの評価とその利用可能性、SCMに関する企業間の情報交換や協力の可能性などについて討議する。

(5)まとめ 17:10~17:15 宮崎 正浩

環境経営学会